

概要

日本におけるワイルド受容史を概観したあと、問題点と今後の展望について考察した。研究については、ワイルド劇上演の研究や書簡研究が極端に少ないことが大きな課題である。また、ワイルドの芸術観を探る上でも、アメリカ講演の研究も今後の大きな可能性を秘めている。最近では、アイルランド人としてのアイデンティティを探る研究も2000年を境にさかんになってきた。最後に発信型のワイルド研究が日本から誕生することに今後の展望の明るい材料とした。なお、2000年はワイルド没後100年にあたり、この記念すべき年に合わせて、日本におけるワイルド受容の問題点を整理し、分析する事によって、今後の新しい局面にどう応えていくべきかを論じたものである。(A5)